

# あわみなと通信

暮らしを支える港湾と空港の話

季節もずいぶん春めいてきました。

皆さま、如何お過ごしでしょうか。あわみなと通信の春号をお届けします。

今号は、当事務所の主な事業についての概要をお知らせしています。

徳島小松島港は古くからのみなとであり、港湾施設の老朽化への対応が喫緊の課題となっています。既存の施設を改良するという工事は、新たに造るのとはまた違った難しさがあり、利用者の皆さまと調整しながら、また、一部にプレキャスト工法を採用するなど、現場での生産性も上げつつ早期の機能回復、向上を目指したいと考えております。

さて、今日は東日本大震災から8年目の日、現地の再生、復興をお祈りするとともに、南海トラフ巨大地震、津波に対する備えについて改めて考え、新たな気持ちで次の年度に向かいたいと思います。

平成31年3月11日 小松島港湾・空港整備事務所長 小田 幸伸

## プレキャスト工法

プレキャスト工法とは、現場で鉄筋の組み立てやコンクリート打設を行う現場製作工法に対し、予め工場等で製作したコンクリート部材を現場に搬入、組み立てを行う工法です。工場等で作成することから、複雑な形状部材であっても安定して品質を確保でき、また、工期の短縮、施工性、安全性の向上といったメリットが期待できます。

金磯地区では、栈橋の一部にプレキャスト工法を採用することで、前垂れ部の品質確保(海中部でのコンクリート打設を回避)、床板の施工性、安全性の確保(型枠や支保工を撤去するための開口部を確保)を図っています。

### 前垂れ



前垂れ据付



前垂れ据付完了

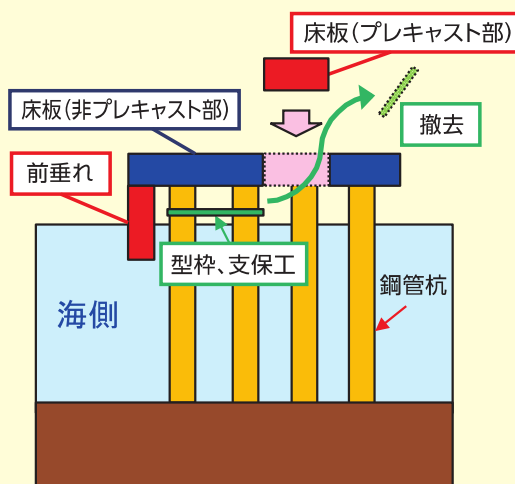
### 床板



床板据付



床板据付完了



栈橋式岸壁イメージ



## 小松島港湾・空港整備事務所 平成31年度事業概要

四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所では、平成31年度の主要な事業として、①港湾整備事業、②海洋環境整備事業の二つの事業に取り組んでいきます。

### ◆ 港湾整備事業 ◆

#### 沖洲(外)地区 複合一貫輸送ターミナル整備事業(徳島港区)

徳島小松島港沖洲(外)地区には四国で唯一の徳島と東京、北九州を結ぶフェリー航路があり、船舶の大型化、フェリー貨物の輸送の効率化、災害時の緊急物資輸送路の確保を目的として、水深8.5mの耐震強化岸壁を中心とした複合一貫輸送ターミナル整備事業を実施しています。平成27年3月に岸壁を供用させ、平成28年1月から同年9月にかけてフェリーの大型化が完了し、現在は4隻運航しています。

近年、長距離トラックドライバー不足が深刻化する中、フェリーによる輸送が期待され、輸送実績は増加(輸送台数は30年/29年比1.2倍)しています。

現在は港内の静穏度確保のために、防波堤の整備(150m延伸)を進めており、平成31年度は、上部工等の施工を行い、平成31年度中の事業完成を目指しています。

さらに、背後では四国横断自動車道も整備されており、今後益々、物流、人流拠点としての機能が強化されることとなります。



#### 金磯地区・本港地区 老朽化対策 (小松島港区)

古くから天然の良港として栄えた小松島港区では、昭和30～40年代に整備されてきた主要港湾施設の老朽化による利用制限とその対策が課題となっています。

金磯及び本港地区の岸壁では、主に原木や化学肥料等が取り扱われています。

金磯地区の水深11mの岸壁は栈橋構造であり、床板ブロック(約20m×約20m)が全部で20ブロックあります。平成28年度から現地工事に着手し、平成30年度までに6ブロックの施工を終えており、平成31年度は引き続き海側2ブロックの施工を予定しています。

本港地区の水深9mの岸壁は老朽化が進行しており、平成30年度に、岸壁全体としての健全度を把握するため、現地調査を行いました。平成31年度は、早期の現地着手に向け、設計等を実施する予定です。

徳島小松島港における今後の港湾施設の老朽化対策については、施設の老朽化状況や利用状況を踏まえ効率的、戦略的に検討を行い、利用者の安全・安心を確保していきます。

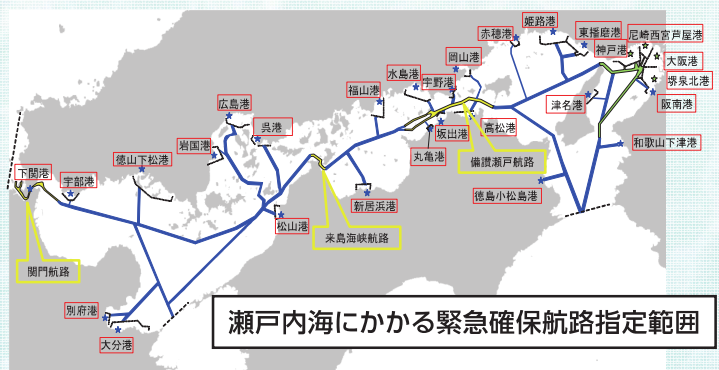
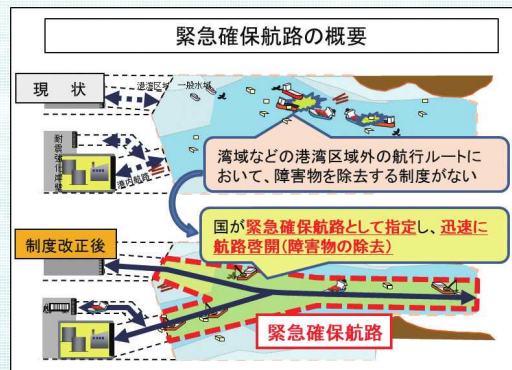
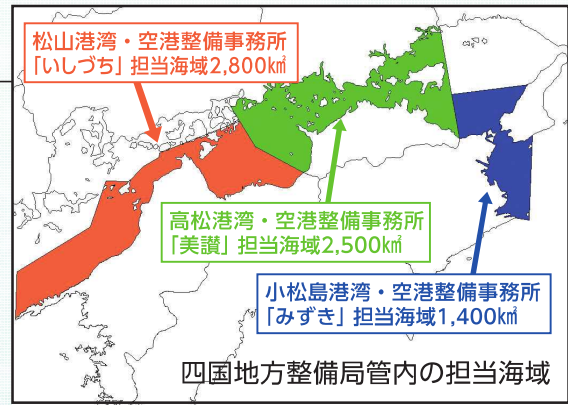




## ◆ 海洋環境整備事業 ◆

四国地方整備局では、瀬戸内海に3隻の海面清掃兼油回収船を配備しており、当事務所では、播磨灘南部および紀伊水道を担当海域として、海面を浮遊する「ゴミ」や「流木」の回収、また、船舶事故などで流出した油を回収等する業務を行っています。

鳴門海峡を挟むこの海域は、航行する船舶の数が非常に多いことで知られ、昔から流木等による海難事故も少なくありませんでした。そこで、平成10年に海面清掃兼油回収船「みずき」を配備して、海面の浮遊ゴミの回収等を通じて航行船舶の安全確保や海洋環境の保全を行っています。また、地震、津波後の緊急物資輸送を担うための緊急確保航路の啓開作業（障害物の除去）を行うために、定期的な訓練、検討等を行っています。



こまぽんの  
なるほど!

# みなと講座

～港湾・空港のことをもっと知っていただくために～



ぼくの名前は「こまぼん」  
空港整備事務所のマスコットキャラクターだよ。タヌキの耳としっぽが自印。  
一般公募によって名前がつけられたんだ。

## 災害時の迅速な航路啓開に向けて～近畿地方整備局との合同訓練～

平成30年7月の西日本豪雨では、多くの流木が海に流れ出した結果、船舶航行や漁業に支障が出るなどのトラブルが発生し、大きな問題となりましたが、災害協定を締結した関係団体や多くの機関と協力して海面を浮遊する流木等の撤去を行いました。

また、2月13日(水)に淡路島江井港沖での油流出災害を想定して、当事務所と神戸港湾事務所で合同訓練を行いました。

この訓練は、支援・受援体制の確認、課題点の抽出を目的としたもので、具体的には状況等の相互情報伝達、放水訓練及び係留訓練を行いました。

当事務所においては、これからも訓練や検討、他組織連携等を進めて参ります。





# みなと通信

## 港について勉強しよう！～出前講座を開催～

1月24日、徳島東ロータリークラブ様からの要請を受け、出前講座を行いました。講座内容として、徳島港区を中心とした徳島小松島港の概要、最近のクルーズ動向等を紹介いたしました。

また、昨今話題のクルーズ需要について、徳島小松島港の受入れ体制にかかる質問や、ヒアリ等の水際線でのチェック機能の質問が出るなど、港への関心が高まっていることもうかがえました。

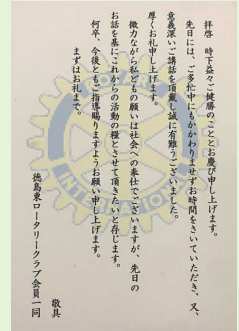
今後もこのような機会を捕まえ、港湾行政を広くPRし、小松島港湾・空港整備事務所の役割を知っていただきたいと思っております。



講義の様子



質疑応答



お礼状をいただきました

## 【報告】徳島小松島港におけるクルーズ船寄港予定

徳島小松島港では、クルーズ船が毎年入港しており、今年も下表の日程で入港する予定です。



入出港日	船名	寄港岸壁
4月9日	飛鳥II(5万トン)	金磯 水深11m
5月14日		初寄港
5月23日	MSCスプレンドィダ(13.8万トン)	赤石 水深13m
6月1日		
8月12日	飛鳥II(5万トン)	金磯 水深11m
8月13日	ダイヤモンド・プリンセス(11.6万トン)	赤石 水深13m
8月14日	ぱしふいっくびいなす(2.7万トン)	沖洲(外) 水深7.5m
8月15日	にっぽん丸(2.2万トン)	沖洲(外) 水深7.5m
8月18日		
9月29日	MSCスプレンドィダ(13.8万トン)	赤石 水深13m
10月6日	ル・ラペルーズ(1万トン)	本港 水深9m
10月8日		初寄港
10月17日	MSCスプレンドィダ(13.8万トン)	赤石 水深13m

提供：徳島県ホームページより

## 出前講座の申し込み受付中！

当事務所では、海と空の「みなと」のこと、また当事務所の仕事について、広く皆さんに知っていただくために、出前講座（みなと学習、環境学習、防災学習）を開講しています。

楽しく学べる当事務所の出前講座、現場見学会のご依頼を受け付けています。



出前講座、現場見学のお問い合わせは・・・

当事務所 TEL (0885)-32-3357

または ホームページ「暮らしを支える港湾と空港の話」  
<http://www.pa.skr.mlit.go.jp/komatsushima/>  
 よりお問い合わせください。